



広工大高弓道部 中国大会出場 ～平成19年度の活動を振り返って～

広島工業大学高等学校
教諭 橋本 佳岳(左) 楽市 政彦(右)

はじめに

広工大高弓道部は3年生5名、2年生6名の計11名で活動をしています(平成20年4月現在)。

本校弓道部は、創部者である染井真吾先生(現なぎさ公園小学校教頭)の教えを今も受け継ぎ、生涯スポーツとしていつでも弓を引くことができるよう、基本に忠実な射形を身につけることを目指しています。また競技では、近隣の競技の試合において春(中国高校選手権大会)・秋(中国高校新人大会)の年2回行われる中国大会進出をまず第一の目標として練習しています。

昨年度は、春・秋とそれぞれ団体が中国大会出場を果たすことができました。実に春は11年ぶり、秋は10年ぶりのことでした。

昨年度まで

弓道の団体競技は3人ないし5人で立ちを組み、一人それぞれ4本の矢を的に放つことを一立として、規定の立数の合計的中数で争われます。

他者・他校との的中比較ももちろんあるのですが、何より自分がかに平常心で的に向かうことができるかを試される競技です。己の中の奢りや不安に打ち克つ心が必要となります。

この10年間は本校弓道部にとって悔しい敗退が続いていました。強豪校が集中している広島地区大会では上位入賞を果たすこともありますが、県大会では惜しくも1、2本差で中国大会進出を逃す試合も多く、あと一歩の壁の大きさを常に感じていました。

技術面もさることながら精神面の成長の必要がありました。学習活動や清掃、身の周りの整頓などの生活を見直し、部全体でレベルアップ、全員で戦おうとの意識統一をうながしました。

日々練習においては部員が自ら目標と反省を発表し、確認しあうほどになりました。また普段の練習の成果を試すとともに試合で己に負けない心を形成するため、練習試合を積極的に活用し、4年前から本校・県立井口高校・市立美鈴が丘高校にて毎年春夏冬

に3校定期戦を開き、現在も行なっています。

平成18年度の広島県高校総体にて団体4位入賞を果たしたことにより、部員たちも手ごたえを感じ、徐々に集団としての自信をつけていきました。

平成19年度 県大会戦績

○広島県高校弓道選手権大会(4月)

・5人団体4矢3立・計60射
上位6校中国高校選手権大会進出
本校一立目 20射12中
二立目 20射11中
三立目 20射13中
計 60射36中にて県第5位

春休みまでに基礎を見直し、3月末に行なった3泊4日の瀬戸田での合宿で実践的練習を積み重ね、今年こそはの思いを秘め臨んだ試合でした。

一、二立目、波に乗れそうで乗れない重い雰囲気でしたが、三立目に大前の古川(現修道大学1年)、二的の戸川(現3年)が4矢皆中を決めるなど練習の成果を発揮し、悲願であった中国高校選手権大会の団体出場権を獲得することができました。

特に顧問のわれわれがうれしかったことは、団体メンバーに選ばれなかった部員たちの応援が素晴らしく、まさに全員で獲得した中国大会でした。

○広島県高校総合体育大会(6月)

・予選 5人団体4矢2立・計40射
・決勝 予選上位5校によるリーグ戦
本校一立目 20射6中
二立目 20射15中
計 40射21中にて予選落ち

この大会の2週間後に中国大会を控えていました。本大会数日前から、選手は必要以上に練習で力が入っていました。

一立目に全く的中が伸びず、開き直った二立目に高的中を出したものの予選落ち、平常心を保つことの難し



平成20年度県高校弓道選手権大会

さ大切さを再認識させられ、顧問として、選手の実力を引き出してやらなかった責任を痛感した大会でした。

○広島県高校新人大会(11月)

・予選 3人団体4矢2立・計24射
・決勝 予選上位5校によるリーグ戦
上位6校中国高校新人大会進出
本校一立目 12射5中
二立目 12射11中
計 24射16中にて予選通過
決勝リーグ 2勝2敗県第3位

6月の中国大会で3年生15名が引退し部員の人数も半数以下になって臨む県大会でした。

一立目の的中が示すとおり戦力的にも苦しい布陣でしたが、引退した3年生に恩返しすべく、3年生がつくってくれた中国大会への道を切らさないことを目標に、主将の高林(現3年)を中心として部員がまとまっており、一立目終了後、選手応援メンバーそれぞれが今自分のすべきことをやりきることだけ考えていました。精神面での成長が実力(もっと言えばそれ以上)

を引き出し、二立目に巻き返してくれました。決勝リーグ戦でも2勝2敗と健闘し、2大会連続での中国高校新人大会団体出場権を獲得、また春の大会では成しえなかった県ベスト3に入ることもできました。

この大会でも、卒業生や引退した3年生もたくさん応援にかけつけてくれ、試合後選手たちと喜びを分かち合っていました。感謝の念に堪えません。

今後に向かって

春・秋の中国大会にての戦績はいかがであったかと申しますと、両大会とも予選落ちでした。広島県から一歩出てみると技術的にも精神的にもまだまだであることを思い知ります。選手もこのような経験によりさまざまなことを学んだと思います。

とりわけ、われわれの印象に残った

ことは、それぞれの県代表選手の人間性の高さです。強豪校ほど道場整備などの清掃活動をすすんで行ない、さわやかな挨拶、目上の方に対するマナーが行き届いています。

どの競技でもそうですが、クラブ活動とはやはり人間形成が根幹であり、その上で競技面の向上があることを実感させられます。

「弓道は礼に始まり礼に終わる」と言われます。武道としての弓道の根幹もまた人間形成です。家族や周りの方々に感謝し、挨拶や礼儀を持った行動がしっかりできる人間に成長するよう、クラブ活動・弓道を通じて、生徒たちに指導しています。

先日の4月19日・20日に行なわれた平成20年度広島県高校弓道選手権大会において、本校弓道部は団体が県第4位入賞を果たし、2年連続の中国高校選手権大会出場権を獲得できました。選手部員を支えてくださる多くの方々に感謝し、顧問・部員一丸となって、更に成長飛躍していきたいと思っています。



正座で精神統一(春合宿にて)